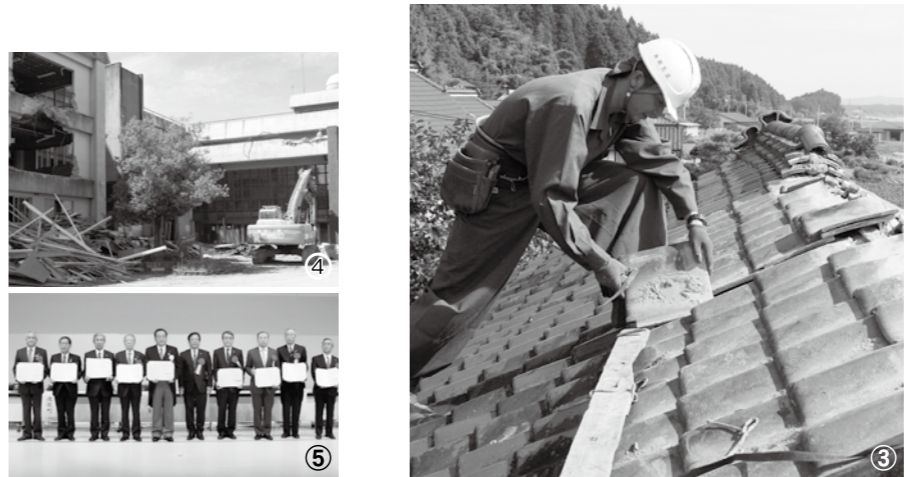


東日本大震災から  
これまでを振り返る

- 7月 ①②木造校舎が被害を受け解体するため、体育館で授業を受けていた古川第一小学校の子どもたちが仮設校舎に引っ越し
- 9月 ③依頼件数が多い屋根瓦の修理（松山地域）  
④解体中の古川東中学校
- 11月 ⑤大崎市震災復興大会で、8市町と自治体間災害時相互応援協定を締結



INTERVIEW



東京都災害対応派遣職員(教師)

山中 千栄子さん

被災地で活動する教師を募集していた東京都教育委員会に応募し、東京都渋谷区立神南小学校から、昨年5月9日に古川第一小学校へ赴任した山中千栄子さん。子どもたちから「やさしくて大好き」と慕われていた先生は、3月末に派遣期間が終了します。大崎市での活動のようすを振り返っていただきました。

赴任当初、歴史ある木造校舎に目をひかれ、外側から見たときは「思ったより被害はないな」という印象でしたが、内部は壁が崩れ、柱も大きく傾くなど、その惨状に胸が痛みました。私は、一年生と三年生、四年生の担任の補助的な仕事などにあたりました。思い出のつまった校舎が使えない状況でも、みんな明るくのびのびと生活していて、支援にきたはずが、逆に元気をもらった気がします。余震が続いていたところは「目を閉じて寝るのが怖い」とおびえる子どももいました。今後同じような災害が起きた場合、子どもがだすサインを見逃さず、優しく接して心の安らぎを与え

第14回創作コンクールつばさ賞で文部科学大臣賞に輝いた「ギッチャんの飛んでくる空」の作者、山中千栄子先生の講座が行われます。

日時 3月24日(土)  
午後2時～3時30分  
場所 図書館  
定員 先着30人  
料金 無料  
申込 電話または図書館で申し込み  
☎ 図書館 ☎ 22-0002

INTERVIEW



福島県大熊町から避難してきた  
千葉 智宏さん 嘉美さん

千葉さん夫妻は、6年前から福島第一原子力発電所がある大熊町に住んでいましたが、現在は、智宏さんの実家がある大崎市三本木地域で暮らしています。震災直後の様子や同じような災害が発生したときに行政に求める対応などを語っていただきました。

あの日は、家族四人で自宅近くの大熊町の公民館に避難しました。翌日の早朝、町役場の人から「福島第一原子力発電所が危険な状態なので西の方へ避難します」と告げられ、大熊町が用意したバスに乗るよう指示されましたが、お年寄りや病気の人を優先に乗せてほしいになったバスは、出発したきり戻ってくることはなく、取り残されてしまいました。

その後、原発がどんな状態なのか説明もなく、町の被害状況も、次のバスがいつ来るのかも分からない。どこからも情報が入らない中、やっと午後後に自衛隊のトラックが到着し、ようやく移動しましたが、どの避難所

に行っても避難した人がいっぱい受け入れてもらうことができませんでした。避難所に着いてはまた別の場所に移動する状態が続く、一度も外に降りられず、真っ暗な車の中、行き先も分からず不安を抱えながら、八時間後、ようやく田村市の避難所へ入ることができました。妻の実家がいわき市なので、なんとか連絡を取って迎えに来てもらい、三月十三日にいわき市に身を寄せました。そこで、初めて原発事故や地震、津波の被害を知りました。放射能の影響を考えると子どもたちが心配なので、住み慣れた町を離れるのは辛かったです。妻の親の車を借り、三月末に大崎市の実

家へ帰省し、今に至っています。自宅を離れる時、二、三日で戻れるだろうと貴重品しか持ってきてきましたが、まさか長期的に避難することになるとは思ってもいませんでした。福島の友人とはたまに連絡を取りますが、あの日以来、会うことができません。大崎市に来たころは、子どもたちは友達と離れて寂しそうでしたが、三本木小学校や地域の皆さんに支えられ、今では新しい友達と元気に学校生活を送っています。

- 12月 ⑥復旧した議場で行われた大崎市議会平成23年第4回定例会
- 1月 ⑦古川地域の市道福沼小泉線(国道47号～桜ノ目橋区間)が通行再開
- 2月 ⑧⑨明治20年に醤油店の店舗として建てられた、歴史ある座敷蔵の解体(松山地域)

